

令和4年度 ときわ会 活動の重点と重点達成の方策（案）

社会に影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症は、未だ終息を見ず、学校現場に大きな影響を与え続けている。新型コロナウイルス感染症への対応が2年あまりに及ぶ中、学校現場の様相も変化を続け、その一部が新しい日常となりつつある。例えば、教職員の研修におけるオンラインの活用は、特別なことではなくなり、教育委員会が主催する研修会でも、学校や各種団体が主催する研修会でも、オンラインの活用が多数を占めている。ときわ会が実施している研修会も例外ではなく、感染拡大防止から多くの研修会がオンラインやハイブリッドで行われた。

そのような中、令和3年度中に行われた研修会には、多くの会員が参加し、活発な研修が行われた。会員の研修への意識は高く、自らを高め続けようとする熱気にあふれていた。新しい日常が定着しても、教育の目的が変わらないことと同様に、ときわ会が目指すことも変わるものではない。それは、教職員としての資質や指導力の向上に努めることであり、ときわ会はこれからも、会員一人一人の研修への思いに応える必要がある。

オンライン等による研修や会合が増えたことにより、直接対面しての機会は大きく減った。移動による時間や経費の負担は減り、合理的な側面が見られた反面、人と人とのつながりや触れ合いが減少し、直接対話する機会も減った。ときわ会員は、これまで会員同士の交流によって切磋琢磨し、支え合い、尊重し合ってきた。ときわ会における親睦は、研修と相まって資質や指導力の向上にも大きく寄与してきた。だからこそ、新型コロナウイルス感染防止を徹底した上で、会員一人一人を多面的に支える意味でも、今後も会員同士の交流機会を確保し、つながりを充実させていかなければならない。

さらには、学校現場には様々な変化が押し寄せている。学習指導要領の改訂から、それほどの時間を置かずして中教審が『令和の日本型学校教育』の構築』を答申した。また、GIGAスクール構想が急速に進み、並行して学校のICT化も進んでいる。デジタル庁の発足により学校現場のデジタル化は、さらに加速する可能性がある。ほかにも、不登校の児童・生徒の増加や特別な支援を必要とする児童・生徒の増加など、各学校とも丁寧な支援が求められている。これらの変化に対応しようと、また、これからの教育を展望しようと、会員は常に最新の知識を得ようと努力している。このような会員に対してときわ会は、研修の機会をさらに充実させるとともに、新しい時代を見据え、これから求められる教育を生み出す原動力とならなければならない。

以上のように、会員一人一人が主体的に研修や親睦に関わることが、これまで以上に期待される中、令和4年度のときわ会は、**新しい時代の教育に向け、自らを高め続ける会員一人一人を支えるときわ会**を基本方針として着実な実践を推し進めていく。

【研修の推進】

新型コロナウイルス感染防止のため、制限があったり、工夫を必要としたりしたが、令和2年度に比べ令和3年度の研修活動は、充実したものとなった。また、この2年間でオンラインの活用につ

いて、技術的に確立、充実することができた。この経験を大切に、今後の研修においても、対面とオンラインそれぞれの良さを活かし、目的、ねらいを明確にした上で運営方法を工夫しながら研修を推進していく。

また、研修の在り方を継続的に検討してきた成果として、新しい研修の制度を始動させる。希望する会員が研修を企画・運営し、全県の希望する会員が参加できる仕組みである。今年度を含め、令和6年度までをパイロット期間として位置付け、新しい仕組みによる研修の効果を検証することとする。その間、教科等研究セミナーは休止する。

これらの方針の下、これまで培ってきた授業力をさらに向上させる研修とともに、学校が直面している生徒指導や教育相談等の課題解決に資する資質や指導力を高める研修、ICT端末の適切な活用に関する研修、特別支援教育に関する研修に力を入れる。

これらのことから、今年度は、「**会員一人一人が必要とする資質や指導力を向上させる研修の推進**」を活動の重点として位置付け、会員一人一人の主体的な研修への取組を促す。

【人材育成と組織の活性化】

ときわ会員は、教職員としての仕事に誇りをもち、目の前の子供のより良い成長のため使命感をもって日々努力を続けている。そして、自らの資質や指導力の向上を目指し、さらなる自己実現に向けて着実に歩みを進めている。ときわ会は、これらの会員の願いを把握し、ときわ会が提供する様々な機会を活用し、また、ときわ会以外の適切な機会の活用を推奨し、人材の育成を図ってきた。今後も、会員一人一人の自己実現を促し、会員の充実感や達成感を高めていく。これらの支援だけにとどまらず、入会間もない年度や会員数の少ない校種や職種の集まり、女性会員、自立会員等への支援を大切に、それぞれの活動の充実を図っていく。会員一人一人の思いの成就や各組織の活性化が、ときわ会全体の組織を強化していくことになる。また、ときわ会は会員相互の取組により、互いに影響を受け、向上を図ってきた組織である。原点に立ち返り、会員一人一人が自ら積極的にときわ会の活動に参画することにより、ときわ会に所属する意味や意義を感じ取るようにしなければならない。

これらのことから、今年度は、「**会員一人一人や各組織への支援を進めることによる人材育成と組織の活性化**」を活動の重点として位置付ける。

【開かれた活動の推進】

ときわ会は、長年に渡り会員以外にも研修の参加を呼び掛け、会員以外への広報活動も行ってきた。これらを強力に推し進め、より開かれたときわ会として活動を進めていく。例えば、会員以外の教職員が発表できる機会を設けることにより、会員内外の交流が生まれ、会員一人一人にとっても価値ある研修や経験となる。さらに、ときわ会への理解も深まることが期待できる。

また、個人だけでなく、これまでどおり行政や各種団体との連携も推進していく。

これらのことから、今年度は、「**活動の公開や情報発信、ネットワークの拡充を通じた、開かれた活動の推進**」を活動の重点として位置付ける。

【創設150周年記念事業の準備】

令和5年度にときわ会は、創設150周年の大きな節目を迎えるため、その準備を進め、具体的な取組の計画を立てる必要がある。ときわ会を挙げての事業をより充実させ、実りあるものとするため、会員の様々な思いを活かしていく。その際、150周年のその先のときわ会の在り方へとつなげていけるよう、記念事業実行委員会は、様々な年層の会員により構成していく。また、会員一人一人が、150周年の節目を迎えるにあたり、その意義をより自覚することを目指し、全会員が参画する活動を展開する。

今年度は「150周年記念事業の計画立案と準備の推進」を活動の重点として位置付ける。

以上から、次の4つの重点及び達成の方策を設定し、ときわ会全体を挙げて取り組んでいく。

I 活動の重点

- 重点1 会員一人一人が必要とする資質や指導力を向上させる研修の推進
- 重点2 会員一人一人や各組織への支援を進めることによる人材育成と組織の活性化
- 重点3 活動の公開や情報発信、ネットワークの拡充を通じた、開かれた活動の推進
- 重点4 150周年記念事業の計画立案と準備の推進

II 活動の重点と重点達成の方策

重点1 会員一人一人が必要とする資質や指導力を向上させる研修の推進

会員が、現在の職務やこれからの実践において必要と考える資質や指導力を高めるため、研修に進んで参加できる新しいシステムを構築するとともに、新しい時代の教育に向けた研修を推進する。

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」を実現し、これからの社会で求められる力を育成する授業力を高める研修を推進する。
- (2) 学校が直面している様々な課題を解決するための資質や指導力を高める研修を推進する。
- (3) ICTを適切に活用した実践を推奨し、ICT活用指導力の向上を目指した研修を推進する。
- (4) 特別支援教育の充実を目指し、適切な教育課程を編成し、特別なニーズに応じた合理的配慮を一層提供できるよう、特別支援教育に関する研修を推進する。

重点2 会員一人一人や各組織への支援を進めることによる人材育成と組織の活性化

新型コロナウイルス感染拡大防止を徹底させるとともに、支部内や年度内のつながりを深める活動を段階的に再開する中で、人材育成を進め、組織の活性化を図る。

- (1) 支部長及び校園長会員が、支部内会員一人一人の現状を把握し、会員の自己実現を支援するとともに支部の運営に活かす。
- (2) 教育研究発表会、ときわスーパーティーチャー、ときわ教育賞、ときわ教育奨励賞、各種論文の執筆等の活動を通して各分野の中核となる人材を計画的に育成するとともに効果的な活躍の場を整える。
- (3) 多様な職種・校種の会員や若手会員、女性会員、自立会員等への支援の充実を図り、活躍の機会を設けるとともに、相互の連携と組織的な活動を推進する。
- (4) 会員が進んで活動に参加できるように活動の方法を工夫するとともに、会員一人一人が自ら考えて活動を提案したり、実践したりできる機会を整える。

重点3 活動の公開や情報発信、ネットワークの拡充を通じた、開かれた活動の推進

ときわ会の研修にかかわる情報発信や様々な機関とのネットワークの拡充を推進するとともに、研修会への会員外の参加や様々な実践の交流の機会の充実を図る。

- (1) 研修会等において会員以外の参加や情報提供、発表の機会を設けたり、教育関係者以外の講師を招聘したりして積極的に会員以外との交流を推進する。
- (2) ときわ会ホームページや「エデュコにいがた」、SNS等による情報発信を推進する。
- (3) 行政機関、県内外の諸大学、教育関係諸機関、公益財団法人新潟教育会等の団体との交流を深め、連携を推進する。

重点4 150周年記念事業の計画立案と準備の推進

150周年のその先のときわ会へとつながるよう、会員の意識を高めるとともに、式典等の具体的な計画を立案する。

- (1) 若手、中堅、ベテランの力を活かした記念事業実行委員会を発足させ、150周年記念事業への準備を推進する。
- (2) 現職会員一人一人が、150周年という節目に向けた事業に参画する意識を高める活動を推進する。